

## 車用電池

# 6年ぶり鉛9万ト超

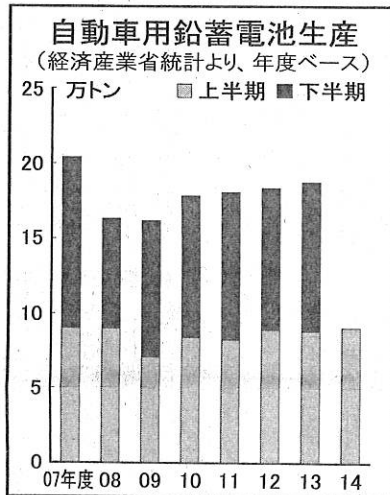
## 4-9月生産 販売量はダウン

経済産業省がこのほど発表した生産動態統計確報によると、2014年度上半期（4-

9月）の自動車用鉛バッテリー（二輪車除く）の国内生産は前年同期比2.4%増の9

万430ト（鉛容量ベース）となり、6年ぶりに9万トを上回った。エコカーを中心に

新車向けが伸びたが、販売量は減少し、在庫余剰バランスで需要期の下半期を迎えた。



上半期生産量は、リマン・ショック前の07年度の9万339トをわずかながら上回り、08年度の9万98ト以来の9万トに届いた。月別に見ると、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の余韻が続いた4月と、前年同月比2桁増となった6月

が、累計数量を押し上げた。4-9月販売量は前年同期比1.2%減の8万4117トだったが、ほぼ例年並みだった。

た。しかし生産とのギャップは拡大し、9月の月末在庫は前年同月比14.1%増の1万6908ト。例年、冬季の補修需要を控えて在庫を積み上げる10-12月レベルまで、早くも達した。

なお、9月単月の生産量は前年同月比6.4%増の1万6015ト、販売量は1.9%増の1万6139トとなり、ともに3カ月ぶりのプラスだった。